

「アジアにおける居住分野に NGO の活動」

新宿アイランドタワー 19階
都市公団東京支所 第1902会議室
平成16年5月21日

途上国都市計画におけるNGOの機能

- ・途上国における都市計画分野で、NGOの活動は影響力が全体に及ぶほど大きくなく、部分的なものになってしまい根本的な解決にはならない。都市計画行政との連携が必要になる。都市計画に関わる動きの中でNGOの役割はどのようなものなのか。
- ・確かに、途上国においては都市計画行政とNGOの接点は少ない。しかし、若干行政から支援を受けているNGOもあり、今後、連携の可能性はある。ただ、行政が資金的な支援をするNGOは、活動実績があるNGOになってしまうので、時間がかかる。このためNGOには、その活動をどのように政府にアピールして、行政のなかにその活動を組み込ませ資金的支援を引き出すかということが必要になる。

途上国における都市計画の役割

- ・途上国における都市計画のゾーニングに意味はあるのか。スラム・スクワッターが沢山いるため、そこを住居系のゾーンとしてしまうと不法占拠を奨励することになってしまう。近年、スラム・スクワッターに関する考え方の転換が提唱された。ここでは、スラム・スクワッターを一つの居住形態とみなす、という考え方のもと、水とか電気へのアクセスを可能にし自力更生を目指すという考えが展開された。では、このような考え方と都市計画とはどのように折り合いがつくのだろうか。

都市と農村の関係

- ・都市のコミュニティにも農村と同じ絆のようなつながりがあるのではないか。
- ・都市コミュニティにおいては絆はそれほど強くない。このため、マイクロクレジットのような融資制度において対象は個人である。一方、農村は絆が強いため融資対象はグループである。

自助努力の必要性

- ・建築分野においても自助努力が必要である。そのためには、自助努力をするような教育が必要になる。ただでつくったものは大切にしない。お金をかけてつくったものは大切にす。
- ・先に目標があってそれにむかってできるところからやっていくということが重要である。とりあえず箱だけつくっても中身がないのなら意味がない。

将来を見据えた開発

- ・いま敷地が細分化してしまったら将来はどうするのか。一度細分化してしまったものをまとめて一つの敷地にするのはなかなか困難である。